

ダイワDBモメンタム 戦略ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	約5年間（2017年8月23日～2022年8月19日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

運用報告書(全体版)

第5期

(決算日 2020年2月19日)

(作成対象期間 2019年8月20日～2020年2月19日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金への配分を変更しながら、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<2721>
<2722>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 中 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末 (2018年 2 月19日)	10,410	150	5.6	—	98.2	25,901
2 期末 (2018年 8 月20日)	10,060	0	△ 3.4	—	98.2	32,422
3 期末 (2019年 2 月19日)	9,646	0	△ 4.1	—	98.1	26,690
4 期末 (2019年 8 月19日)	10,243	100	7.2	—	98.5	20,826
5 期末 (2020年 2 月19日)	10,433	0	1.9	—	95.6	17,207

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注 2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

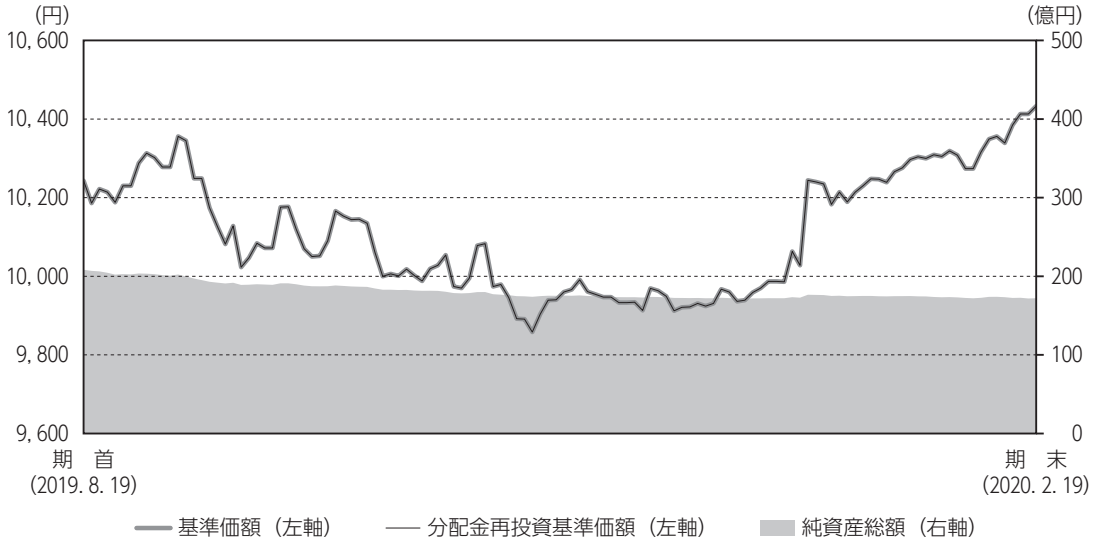
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注 4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,243円

期末：10,433円（分配金0円）

騰落率：1.9%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

主にモメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）の上昇がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、米国株式の上昇や金価格の上昇がプラスに寄与しました。米国長期金利（債券価格）の寄与は軽微でした。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）：オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期首)2019年 8月19日	10,243	—	—	98.5
8月末	10,302	0.6	—	98.1
9月末	10,070	△ 1.7	—	99.5
10月末	9,995	△ 2.4	—	98.4
11月末	9,933	△ 3.0	—	99.4
12月末	10,063	△ 1.8	—	98.2
2020年 1月末	10,305	0.6	—	98.0
(期末)2020年 2月19日	10,433	1.9	—	95.6

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2019. 8. 20 ~ 2020. 2. 19）

■ 米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

当作成期首から2019年9月中旬にかけての米国株式市況は、香港やイタリア、英国などにおける政治的な緊張が緩和したことなどを受けて、上昇しました。その後10月上旬にかけては、トランプ米国大統領に対する弾劾調査が開始されるとの発表を受けて政治的な混乱が予想されたことなどから、下落しました。10月中旬から当作成期末にかけては、F R B（米国連邦準備制度理事会）による緩和的な金融政策や米中通商協議における第1段階合意などを背景に、おおむね上昇しました。

■ 米国長期金利

米国長期債券市況はほぼ横ばいとなりました。

当作成期首から2019年12月下旬にかけては、米中通商協議が進展を見せたことや米国の経済指標が好調だったことを受けて、景気への楽観的な見方が広がり、米国長期金利が上昇して長期債券市況は下落しました。2020年1月上旬から当作成期末にかけては、中国の新型コロナウイルスの感染拡大による景気減速への影響が意識されて米国長期金利が低下し、長期債券市況は上昇しました。

■ 金

金価格は上昇しました。

当作成期首から2019年11月下旬にかけては、米中通商協議への進展期待が高まったほか、米国の主要株価指数が史上最高値近辺を維持して推移したことなどから、安全資産としての金の需要が低下し、金価格は下落しました。2019年12月上旬から当作成期末にかけては、対ユーロでの米ドル安を背景に、米ドル建ての金に割安感が出たことで買いが入ったほか、中国の新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済への影響が警戒されたことで安全資産としての金の需要が高まり、金価格は上昇しました。

■ 米ドルキャッシュ

米国の短期金利は政策金利1.75~2.25%（年率）近辺で推移し、米国短期債券市況は緩やかに上昇しました。

■ 短期金利市況

日本では、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続し、短期金利は低位で推移しました。一方、F R B（米国連邦準備制度理事会）は2019年9月と10月に政策金利の誘導目標を0.25%ポイントずつ引き下げ、1.50~1.75%としました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性及び資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2019. 8. 20 ~ 2020. 2. 19)

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期間において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2019年8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	2020年1月末
米国株式	3.2%	9.6%	16.6%	21.4%	25.1%	28.8%
米国長期金利	56.5%	50.2%	43.2%	38.7%	30.0%	20.7%
金	34.6%	37.2%	40.2%	40.0%	44.9%	50.4%
米ドルキャッシュ	5.7%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2019年8月20日 ～2020年2月19日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（%）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	433

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2019. 8. 20～2020. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	60円	0.592%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,109円です。
(投 信 会 社)	(19)	(0.193)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(39)	(0.385)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	60	0.596	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

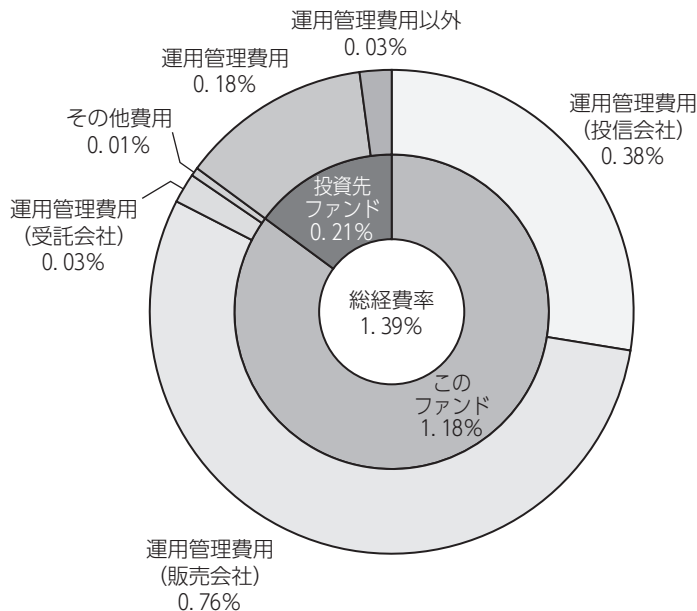
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.39%です。



総経費率（① + ② + ③）	1.39%
①このファンドの費用の比率	1.18%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.18%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

(2019年8月20日から2020年2月19日まで)

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外国 (邦貨建)	—	—	41,330.42539	4,440,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

(2019年8月20日から2020年2月19日まで)

当 期				期 末			
買 付		売 付		買 付		売 付	
銘 柄	□ 数	金 額	平均単価	銘 柄	□ 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
				ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS (ケイマン諸島)	41,330.42539	4,440,000	107

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS	149,074.97137	16,456,982	95.6

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期	期 末
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	6,592	6,592	6,586

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	16,456,982	94.4
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	6,586	0.0
コール・ローン等、その他	968,696	5.6
投資信託財産総額	17,432,265	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年2月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	17,832,265,431円
コール・ローン等	568,696,228
投資信託受益証券（評価額）	16,456,982,389
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	6,586,814
未収入金	800,000,000
(B) 負債	624,570,073
未払金	400,000,000
未払解約金	116,782,920
未払信託報酬	107,037,086
その他未払費用	750,067
(C) 純資産総額（A－B）	17,207,695,358
元本	16,492,844,718
次期繰越損益金	714,850,640
(D) 受益権総口数	16,492,844,718口
1万口当り基準価額（C/D）	10,433円

* 期首における元本額は20,331,244,282円、当作成期間中における追加設定元本額は343,839,159円、同解約元本額は4,182,238,723円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,433円です。

■損益の状況

当期 自 2019年8月20日 至 2020年2月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 95,997円
受取利息	10,195
支払利息	△ 106,192
(B) 有価証券売買損益	422,676,485
売買益	464,282,137
売買損	△ 41,605,652
(C) 信託報酬等	△ 107,790,681
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	314,789,807
(E) 前期繰越損益金	174,400,775
(F) 追加信託差損益金	225,660,058
（配当等相当額）	（ 147,607,716）
（売買損益相当額）	（ 78,052,342）
(G) 合計（D＋E＋F）	714,850,640
次期繰越損益金（G）	714,850,640
追加信託差損益金（配当等相当額）	（ 225,660,058）
（売買損益相当額）	（ 147,607,716）
（ 78,052,342）	（ 78,052,342）
分配準備積立金	489,288,354
繰越損益金	△ 97,772

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	314,790,397
(c) 収益調整金	225,660,058
(d) 分配準備積立金	174,497,957
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	714,948,412
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	714,948,412
(h) 受益権総口数	16,492,844,718口

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 配 分 金	期 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末 (2018年 2 月19日)	10,324	100	4.2	—	96.6	61,325
2 期末 (2018年 8 月20日)	10,472	50	1.9	—	97.2	77,315
3 期末 (2019年 2 月19日)	10,179	0	△ 2.8	—	98.4	63,471
4 期末 (2019年 8 月19日)	10,578	100	4.9	—	98.8	46,378
5 期末 (2020年 2 月19日)	11,132	150	6.7	—	96.2	35,039

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注 2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

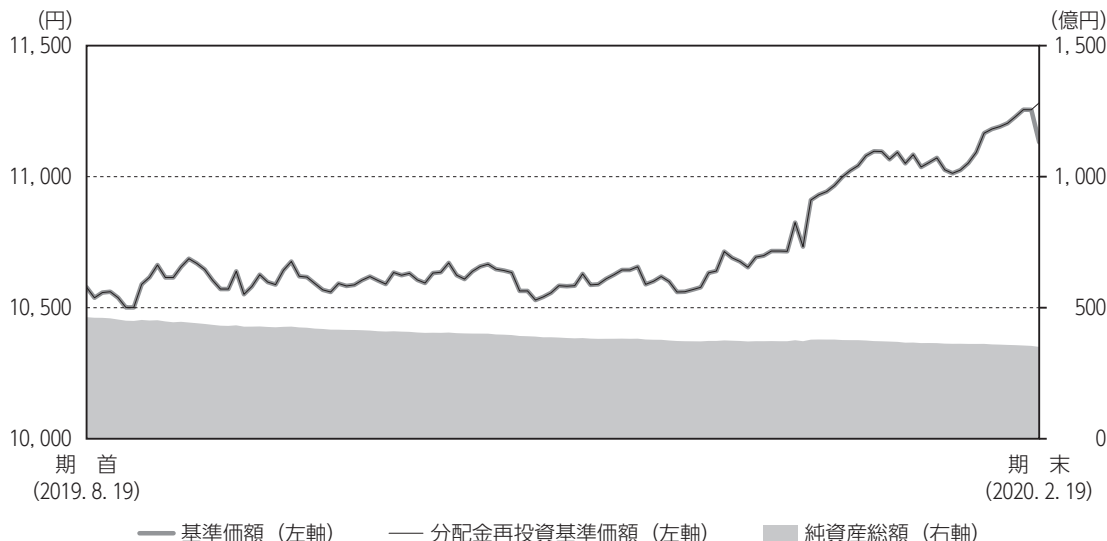
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注 4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,578円

期末：11,132円（分配金150円）

騰落率：6.7%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

主にモメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）の上昇がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、米国株式の上昇や金価格の上昇、米ドルが対円で上昇したことがプラスに寄与しました。米国長期金利（債券価格）の寄与は軽微でした。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）：オージェンタム・トラスト・モメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期首)2019年 8月19日	10,578	—	—	98.8
8月末	10,663	0.8	—	98.0
9月末	10,617	0.4	—	98.7
10月末	10,639	0.6	—	98.7
11月末	10,644	0.6	—	99.4
12月末	10,825	2.3	—	98.3
2020年 1月末	11,026	4.2	—	97.9
(期末)2020年 2月19日	11,282	6.7	—	96.2

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2019. 8. 20 ~ 2020. 2. 19)

■ 米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

当作成期首から2019年9月中旬にかけての米国株式市況は、香港やイタリア、英国などにおける政治的な緊張が緩和したことなどを受けて、上昇しました。その後10月上旬にかけては、トランプ米国大統領に対する弾劾調査が開始されるとの発表を受けて政治的な混乱が予想されたことなどから、下落しました。10月中旬から当作成期末にかけては、F R B（米国連邦準備制度理事会）による緩和的な金融政策や米中通商協議における第1段階合意などを背景に、おおむね上昇しました。

■ 米国長期金利

米国長期債券市況はほぼ横ばいとなりました。

当作成期首から2019年12月下旬にかけては、米中通商協議が進展を見せたことや米国の経済指標が好調だったことを受けて、景気への楽観的な見方が広がり、米国長期金利が上昇して長期債券市況は下落しました。2020年1月上旬から当作成期末にかけては、中国の新型コロナウイルスの感染拡大による景気減速への影響が意識されて米国長期金利が低下し、長期債券市況は上昇しました。

■ 金

金価格は上昇しました。

当作成期首から2019年11月下旬にかけては、米中通商協議への進展期待が高まったほか、米国の主要株価指数が史上最高値近辺を維持して推移したことなどから、安全資産としての金の需要が低下し、金価格は下落しました。2019年12月上旬から当作成期末にかけては、対ユーロでの米ドル安を背景に、米ドル建ての金に割安感が出たことで買いが入ったほか、中国の新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済への影響が警戒されたことで安全資産としての金の需要が高まり、金価格は上昇しました。

■ 米ドルキャッシュ

米国の短期金利は政策金利1.75~2.25%（年率）近辺で推移し、米国短期債券市況は緩やかに上昇しました。

■ 米ドル／円為替市況

米ドルは対円で上昇しました。

当作成期首から2020年1月上旬にかけての米ドルの対円為替相場は、米国において好調な内容の経済指標が見られたことや、米中貿易摩擦への懸念が後退したことなどを受けて、おおむね上昇基調で推移しました。しかし当作成期末にかけては、中国の新型コロナウイルス感染拡大に関する懸念が拡大し、市場のリスク回避姿勢が強まったことから、やや上げ幅を縮めました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2019. 8. 20 ~ 2020. 2. 19）

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期間において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2019年8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	2020年1月末
米国株式	3.2%	9.6%	16.6%	21.4%	25.1%	28.8%
米国長期金利	56.5%	50.2%	43.2%	38.7%	30.0%	20.7%
金	34.6%	37.2%	40.2%	40.0%	44.9%	50.4%
米ドルキャッシュ	5.7%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2019年8月20日 ～2020年2月19日	
当期分配金（税込み）	(円)	150
対基準価額比率	(%)	1.33
当期の収益	(円)	150
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	1,132

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 703.55
(c) 収益調整金	364.53
(d) 分配準備積立金	214.15
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	1,282.25
(f) 分配金	150.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	1,132.25

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2019. 8. 20～2020. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	64円	0.592%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,732円です。
(投 信 会 社)	(21)	(0.193)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(41)	(0.385)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	64	0.595	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

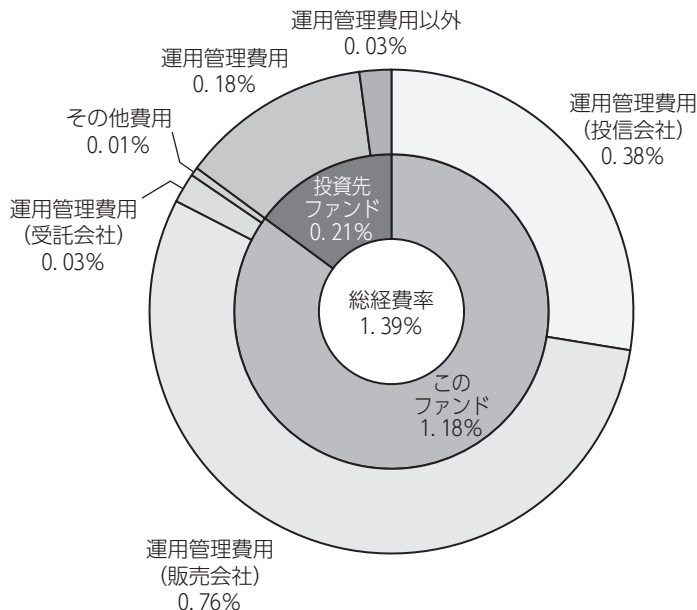
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.39%です。



総経費率（① + ② + ③）	1.39%
①このファンドの費用の比率	1.18%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.18%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

（2019年8月20日から2020年2月19日まで）

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外国 （邦貨建）	—	—	130,012.68597	14,780,000

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

投資信託受益証券

（2019年8月20日から2020年2月19日まで）

当 期				期 末			
買 付		売 付		買 付		売 付	
銘 柄	□ 数	金 額	平均単価	銘 柄	□ 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
				ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS（ケイマン諸島）	130,012.68597	14,780,000	113

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS	282,020.92801	33,695,578	96.2

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

（注2）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	10,288	10,288	10,279

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	33,695,578	93.3
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	10,279	0.0
コール・ローン等、その他	2,397,956	6.7
投資信託財産総額	36,103,814	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年2月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	36,703,814,756円
コール・ローン等	1,797,956,876
投資信託受益証券（評価額）	33,695,578,458
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	10,279,423
未収入金	1,199,999,999
(B) 負債	1,663,879,593
未払金	600,000,000
未払収益分配金	472,143,352
未払解約金	356,124,883
未払信託報酬	234,482,224
その他未払費用	1,129,134
(C) 純資産総額（A－B）	35,039,935,163
元本	31,476,223,495
次期繰越損益金	3,563,711,668
(D) 受益権総口数	31,476,223,495口
1万口当り基準価額（C/D）	11,132円

*期首における元本額は43,845,550,758円、当作成期間中における追加設定元本額は563,882,365円、同解約元本額は12,933,209,628円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は11,132円です。

■損益の状況

当期 自 2019年8月20日 至 2020年2月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 188,738円
受取利息	37,176
支払利息	△ 225,914
(B) 有価証券売買損益	2,450,359,264
売買益	2,652,411,661
売買損	△ 202,052,397
(C) 信託報酬等	△ 235,619,546
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	2,214,550,980
(E) 前期繰越損益金	673,877,641
(F) 追加信託差損益金	1,147,426,399
（配当等相当額）	（ 62,649,188）
（売買損益相当額）	（ 1,084,777,211）
(G) 合計（D＋E＋F）	4,035,855,020
(H) 収益分配金	△ 472,143,352
次期繰越損益金（G＋H）	3,563,711,668
追加信託差損益金	1,147,426,399
（配当等相当額）	（ 62,649,188）
（売買損益相当額）	（ 1,084,777,211）
分配準備積立金	2,416,476,569
繰越損益金	△ 191,300

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	2,214,540,275
(c) 収益調整金	1,147,426,399
(d) 分配準備積立金	674,079,646
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	4,036,046,320
(f) 分配金	472,143,352
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	3,563,902,968
(h) 受益権総口数	31,476,223,495口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	150円

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド
日本円クラス／米ドル・クラス

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））はケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド 日本円クラス／米ドル・クラス」に投資しておりますが、以下の内容は一部の項目を除きすべてのクラスを合算しております。

（注）2020年2月19日時点で入手しうる直近の状況を掲載しております。

（日本円建て）

貸借対照表
2018年12月31日

資産

投資資産の評価額（簿価 ¥92,895,124,104）	¥	88,798,489,575
現金および現金同等物		37,206,502
スワップ契約による評価益		103,018,089
終了済みスワップ契約の未収金		830,669,584
その他資産		25,752
資産合計		89,769,409,502

負債

未払：		
担保不足額		26,551,462
専門家報酬		22,552,203
管理会社報酬		9,675,489
運用会社報酬		7,962,419
名義書換代理人報酬		1,089,804
負債合計		67,831,377

純資産

	¥	89,701,578,125
日本円クラス	¥	26,394,672,469
米ドル・クラス		63,306,905,656
	¥	89,701,578,125

発行済み受益証券口数

日本円クラス	276,047,245
米ドル・クラス	633,725,875

受益証券1口当り純資産額

日本円クラス	¥	95.617
米ドル・クラス	¥	99.896

損益計算書

2018年12月31日に終了した年度

投資収益	
受取利息	¥ 2,722,052
投資収益合計	<u>2,722,052</u>
費用	
担保不足費用	301,511,824
運用会社報酬	106,329,044
管理会社報酬	60,760,496
専門家報酬	23,869,961
名義書換代理人報酬	9,970,206
設立費用	3,524,208
受託会社報酬	1,135,500
その他費用	1,107,268
費用合計	<u>508,208,507</u>
投資純損失	<u>(505,486,455)</u>
実現益 / (損) および評価益 / (損) :	
実現 (損) の内訳:	
証券投資	1,416,108,219
スワップ契約	(506,987,243)
外国為替取引および為替先渡契約	(17,561,339)
純実現利益	<u>891,559,637</u>
評価益 / (損) の純変動の内訳:	
証券投資	(8,347,652,006)
スワップ契約	4,898,704
外国為替換算	(10,145,798)
評価益 (損) の純変動	<u>(8,352,899,100)</u>
純実現利益 (損) および評価益 (損) の純変動	<u>(7,461,339,463)</u>
運用による純資産の純減	<u>¥ (7,966,825,918)</u>

(日本円建て)

投資明細表
2018年12月31日

ストラクチャード商品

投資資産の明細	受益証券数	純資産に占める割合		評価額
Deutsche Bank Momentum Asset Allocator Index* ー トータル・リターン・スワップ	812,302	98.99%	¥	88,798,489,575
ストラクチャード商品計 (簿価 ¥92,895,124,104)				88,798,489,575
投資資産計 (簿価 ¥92,895,124,104)		98.99%	¥	88,798,489,575

*当ファンドは Deutsche Bank A.G.、ロンドン支店との間で締結したファンドの残高と同金額の元本のパフォーマンス・スワップを通して Deutsche Bank Momentum Asset Allocator Index と同様のエクスポージャーを有しています。

日本円クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益 (損)	純資産に占める割合
J P Y	Deutsche Bank A. G.	25,892,636,345	2019/1/31	U S D	(235,444,110)	¥ 103,018,089	0.11%

用語集：

J P Y 日本円
U S D 米ドル

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

<補足情報>

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））が投資対象としている「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の決算日（2019年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2020年2月19日）現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの主要な売買銘柄

2019年8月20日～2020年2月19日における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

2020年2月19日現在、有価証券等の組み入れはありません。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

運用報告書 第8期 (決算日 2019年12月9日)

(作成対象期間 2018年12月11日～2019年12月9日)

ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

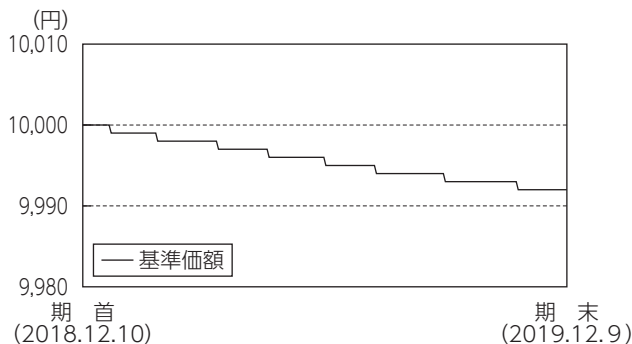
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2018年12月10日	円	%	%
	10,000	-	-
12月末	10,000	0.0	-
2019年1月1月末	9,999	△0.0	-
2月末	9,998	△0.0	-
3月末	9,997	△0.0	-
4月末	9,997	△0.0	-
5月末	9,996	△0.0	-
6月末	9,995	△0.1	-
7月末	9,994	△0.1	-
8月末	9,994	△0.1	-
9月末	9,993	△0.1	-
10月末	9,993	△0.1	-
11月末	9,992	△0.1	-
(期末)2019年12月9日	9,992	△0.1	-

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,000円 期末：9,992円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

短期の国債やコール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	2 (2)
合 計	2

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
 (注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	国債証券	40,000	(40,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

		当 期	
		買 付	売 付
銘	柄	金 額	柄
801 国庫短期証券 2019/3/18		千円 40,000	千円

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	7,324,100	100.0
投資信託財産総額	7,324,100	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	7,324,100,953円
コール・ローン等	7,324,100,953
(B) 負債	44,082
その他未払費用	44,082
(C) 純資産総額(A - B)	7,324,056,871
元本	7,329,994,437
次期繰越損益金	△ 5,937,566
(D) 受益権総口数	7,329,994,437口
1万口当り基準価額(C / D)	9,992円

* 期首における元本額は9,018,625,641円、当作成期間中における追加設定元本額は4,065,530,242円、同解約元本額は5,754,161,446円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ債券コア戦略ファンド(為替ヘッジあり) 999円、ダイワ債券コア戦略ファンド(為替ヘッジなし) 999円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αワトロプレミアム(毎月分配型) 219,583円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αワトロプレミアム(年2回決算型) 24,953円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム(毎月分配型) 848,389円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム(年2回決算型) 66,873円、ダイワ米国株主還元株ファンド36,730,213円、ダイワD Bモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジあり) 6,592,748円、ダイワD Bモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジなし) 10,288,683円、ダイワ/パリュール・パートナーズ・チャイナ・イノベーター・ファンド10,000円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(年1回決算型) 4,995円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(年1回決算型) 4,995円、ダイワ・ブラジル・レアル債α(毎月分配型) -スーパー・ハイインカム- α50コース49,911円、ダイワ・ブラジル・レアル債α(毎月分配型) -スーパー・ハイインカム- α100コース49,911円、ダイワ・オーストラリア高配当株ファンド・マネー・ポートフォリオ118,909,472円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 6 - 1,052,878,511円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 7 - 1,327,444,782円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 4 - 858,767,992円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver 5 - 3,405,863,412円、ダイワ円債セレクト・マネーコース504,712,528円、ダイワ・スイス高配当株ツインα(毎月分配型) 2,996,106円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 為替ヘッジなしコース1,490,665円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 日本円コース497,633円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) ブラジル・レアル・コース994,307円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 通貨セレクト・コース397,742円、ダイワ世界インカム・ハンター(年2回決算型) 為替ヘッジあり40,885円、ダイワ世界インカム・ハンター(年2回決算型) 為替ヘッジなし100,789円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(毎月分配型) 1,235円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(毎月分配型) 1,598円、通貨選択型 ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 日本円コース(毎月分配型) 1,544円、通貨選択型ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 通貨セレクトコース(毎月分配型) 1,984円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,992円です。
* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は5,937,566円です。

■損益の状況

当期 自2018年12月11日 至2019年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△4,832,170円
受取利息	2,318
その他収益金	4
支払利息	△4,834,492
(B) その他費用	△1,752,564
(C) 当期損益金(A + B)	△6,584,734
(D) 前期繰越損益金	119,826
(E) 解約差損益金	2,559,971
(F) 追加信託差損益金	△2,032,629
(G) 合計(C + D + E + F)	△5,937,566
次期繰越損益金(G)	△5,937,566

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。